

(170) 栃木県鹿沼市上久我地区の加蘇鉾山、東加蘇鉾山、高平鉾山跡一まとめの追記

かつて訪問した加蘇鉾山跡の再探査に出かけることにした。ガーミンによる詳細な経路ログを得るためであった。が、近傍に、高平鉾山跡、東加蘇鉾山跡もあることに気づいた。これら3つの鉾山跡をまとめて再探査し、GPSによる経路ログをしっかりと得ることにした。従って、経路ログの曲線は何回かの再探査による経路ログの重なりであり、また実測とズレている箇所には適当に補正を施した経路ログであることに注意すること。

これらの鉾山は足尾山塊中に多数あるマンガン鉾山の一部である。本稿を読むに当たって、本探査記で既報の「(18) 加蘇鉾山跡」、「(80) 栃木県鹿沼市上久我の高平鉾山跡」、「(131) 栃木県鹿沼市の東加蘇(上久我)鉾山跡」の報告文を事前に読み込んでおくことを勧める。

現地へは、鹿沼市の中心から240号を西に直進していく。図1に、現地の鉾山位置マップを示している。

2022年10月

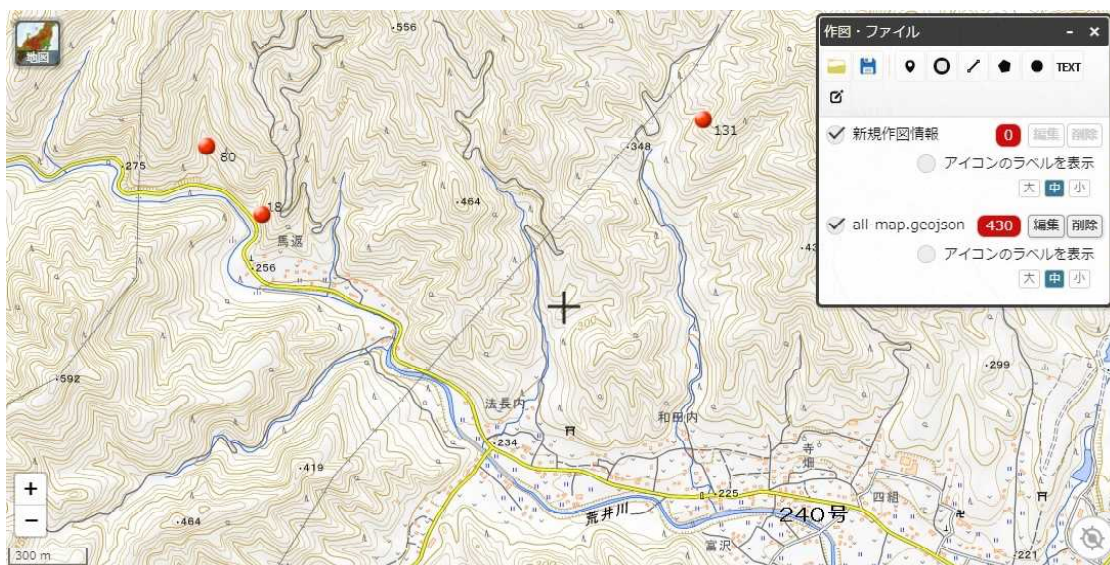


図1 和田内地区の北方にある番号131が東加蘇鉾山跡、240号を先に進んだ馬返の所の番号18が加蘇鉾山跡、その先の番号80が高平鉾山跡である。このマップは著者の鉾山探査記の本文で利用方法を紹介している(2022年7月から)ので、希望者はそれを参考にとすると良い。

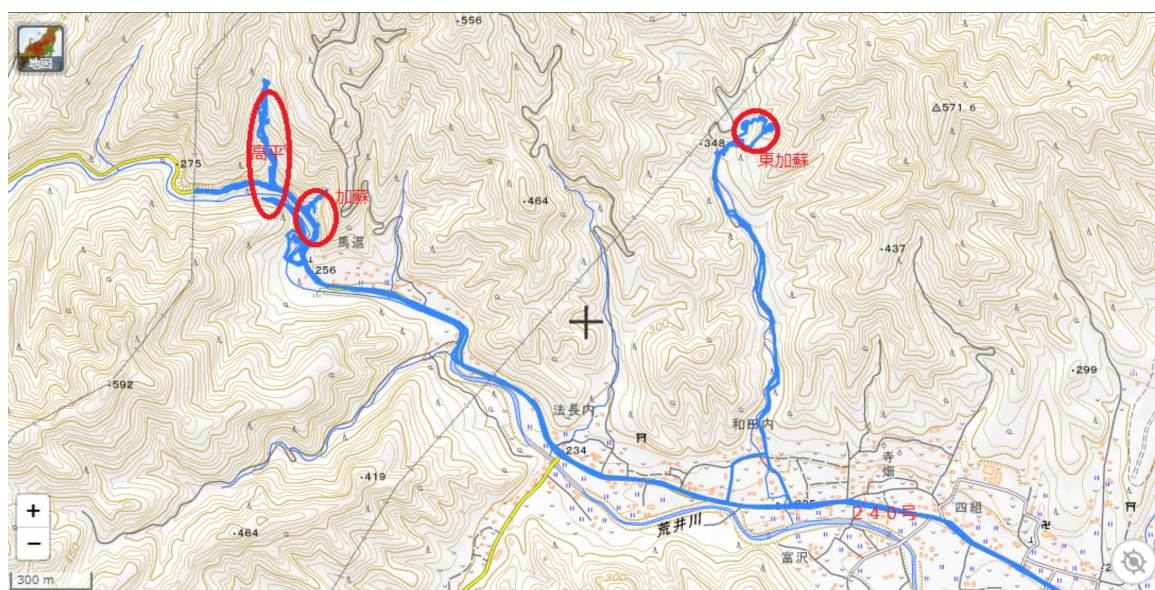


図2 今回、数回にわたった探査経路曲線を水色曲線で重ね書いている。現地の3カ所を赤輪で囲っている。

東加蘇鉦山跡

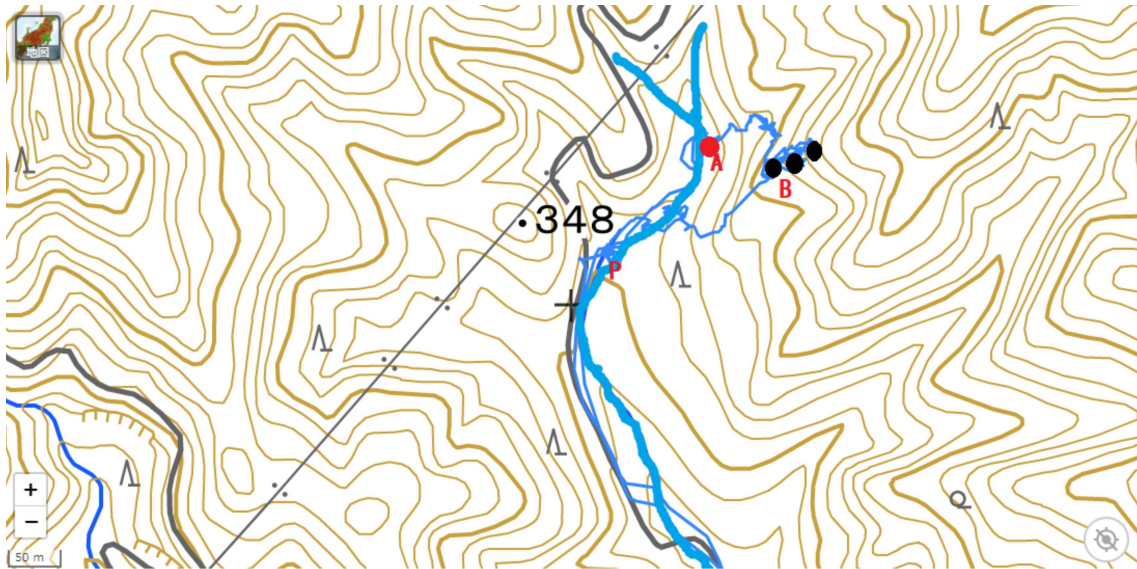


図3 図2の部分拡大図。東加蘇鉦山跡である。黒丸が坑口跡。赤丸が施設跡。文字Pは駐車箇所。元図とした地形図中に沢が明記されていないので、少し太い水色曲線で書き足している。この付近の既報の(131)中の図2の方が分かり易いかもしれない。A点は石垣上の平坦部分の施設跡。尾根上のB点付近には多数の坑口があり、露天掘りの跡、縦穴がある。B点へは今回A点から沢筋を登り上がったが、既報の時(2014年3月)とは状況が異なっていた。沢の倒木が酷く、苦勞した。B点からは尾根筋に下ったが、登るのはこちらの方がおすすめである。



写真1 B点付近の坑口の一つ。



写真2 入り口から見たその内部の様子。



写真3 B点付近の他の坑口の一つ。



写真4 入り口から覗いたその内部の様子。



写真5 B点付近の露天掘り跡の近くの縦穴。

加蘇鉦山跡

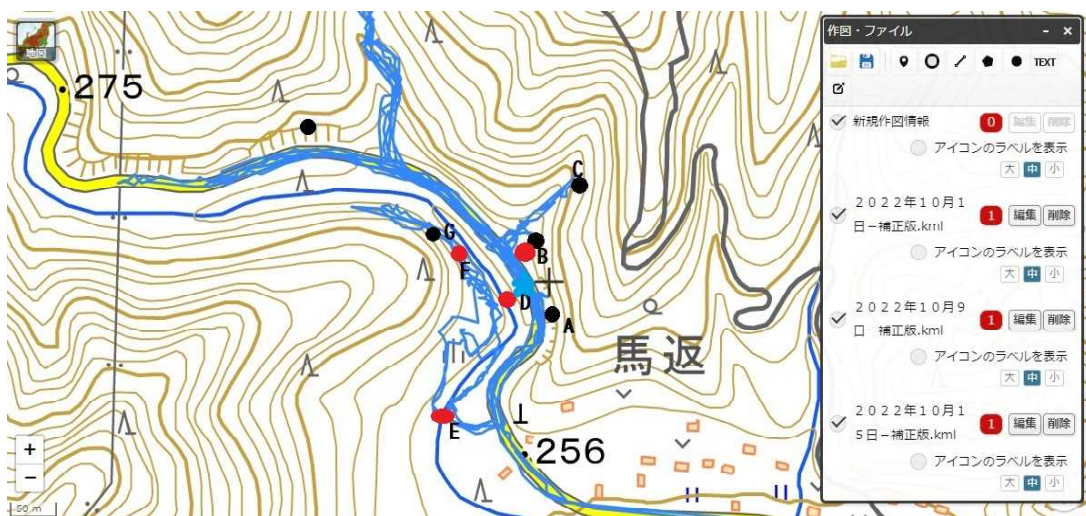


図4 図2の部分拡大図。黒丸が坑口跡、赤丸が施設跡など。A点は道路横にある「大通洞坑」跡。B点は「選鉱所」跡、コンクリートの建物とその上部に入り口が密閉された「大切坑」跡。そこから少し上のC点にも坑口跡。D点には川中にもコンクリート製橋脚が残っている、「通洞橋」跡。墓地

付近のE点付近には鉄板橋が架かっており通行可。F，Gは高平鉱山関係と思われるので、その項で紹介する。

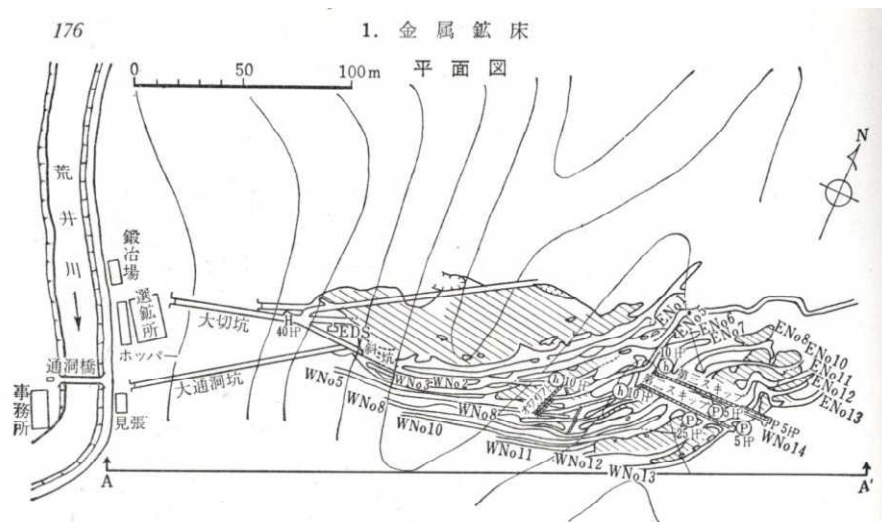


図5 加蘇鉱山の鉱山図。参考文献(1)より複写掲載。これを参考にして、経路ログを描いた地形図である図4中の各箇所の同定を行った。なを、加蘇鉱山の紹介は参考文献(1)が詳しい



写真6 右の赤輪がA点。中央の赤輪がB点、山林の斜面の藪の中にコンクリート建物跡などがある。左の赤輪がD点、川中にコンクリート橋脚が残っている。右岸の林の中に「事務所」があったらしいが、全く確認できず。が、このカ所から上流側にあったらしい高平鉱山のものと思われる「発電所」の廃屋は確認した。



写真7 A点の「大通洞坑」跡である。

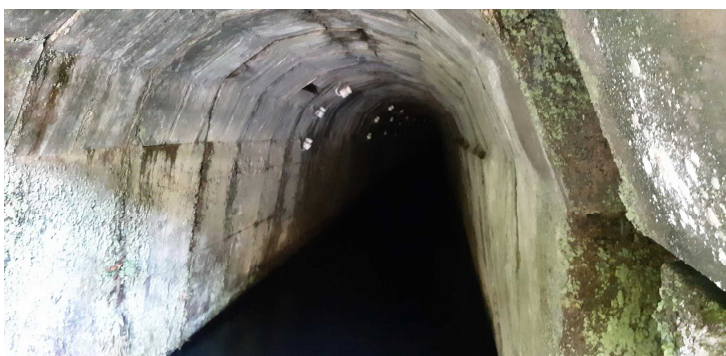


写真8 その内部を入り口から覗いた様子。壁面にはコンクリートが巻かれている、長期にわたって使用されたのであろう。

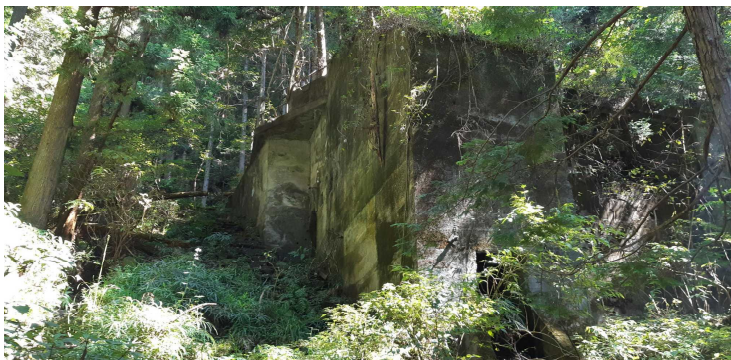


写真 9 B 点の所の選鉱所跡。



写真 10 選鉱所跡の上の方にある大切坑跡。入り口はしっかりと閉じられている。



写真 11 C 点の所。小さい沢の上流左岸にあった坑口跡。赤輪の部分。

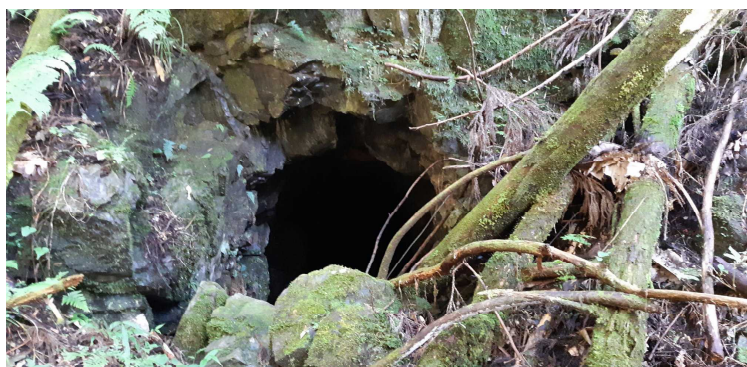


写真 12 その近接写真



写真13 そして、入り口から覗いた内部の様子。

高平鉦山跡

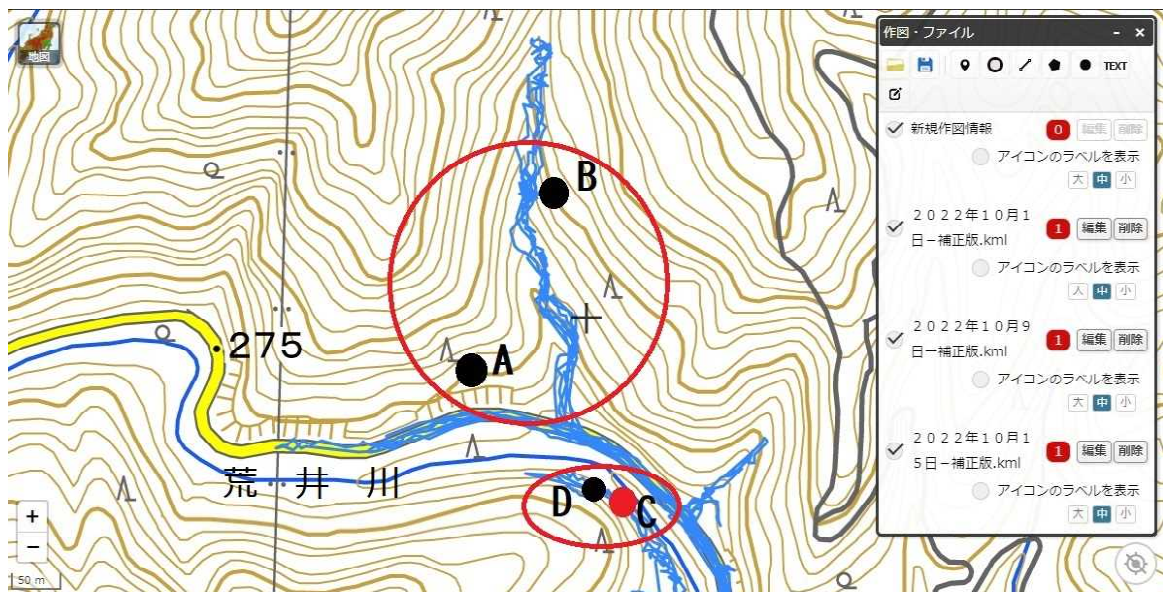


図6 図2の部分拡大図。高平鉦山は文献(1)、(2)、及び既報の(80)などから判断すると、加蘇鉦山の西側に近接し、荒井川の左岸側の沢と、右岸の丘陵部の2カ所にあったらしい。それを図中に2つの赤輪で示している。上の谷筋の所は既報(80)で紹介している。今回の探査行では、A点での坑口跡、B点での坑口跡を再確認した。が、他の坑口跡は現地の藪が酷くて未確認となった。なを、この沢は、昔と違ってB点上流にある砂防ダムまで沢に並んでブル道が開削されていた。荒井川の南の右岸には、発電小屋であつたらしい建物跡(C点)とその付近の広いプラト一部、潰れた坑口跡らしい箇所(D点)を確認した。

図7 参考文献(2)からの複写掲載。

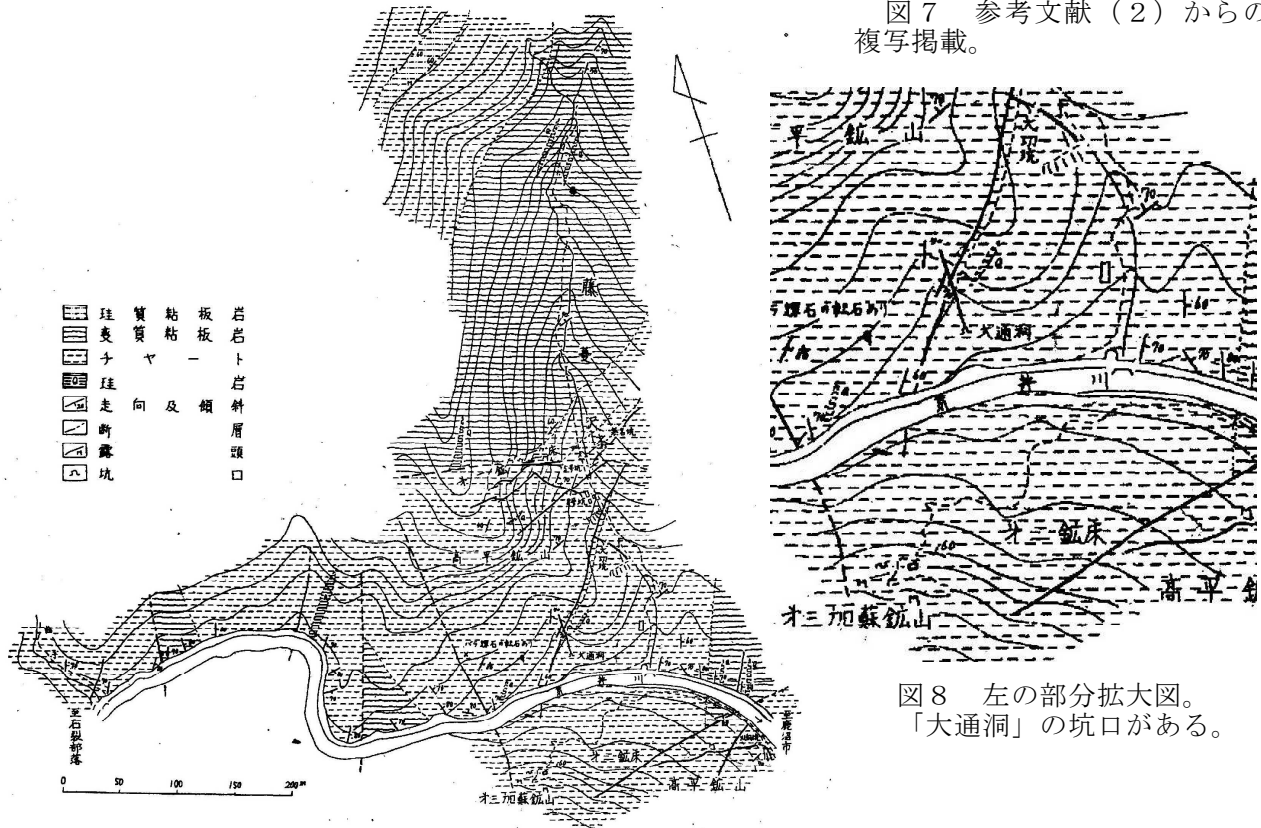


図8 左の部分拡大図。
「大通洞」の坑口がある。

第16圖 高平鉱山附近地質鉱床圖

22—(178)

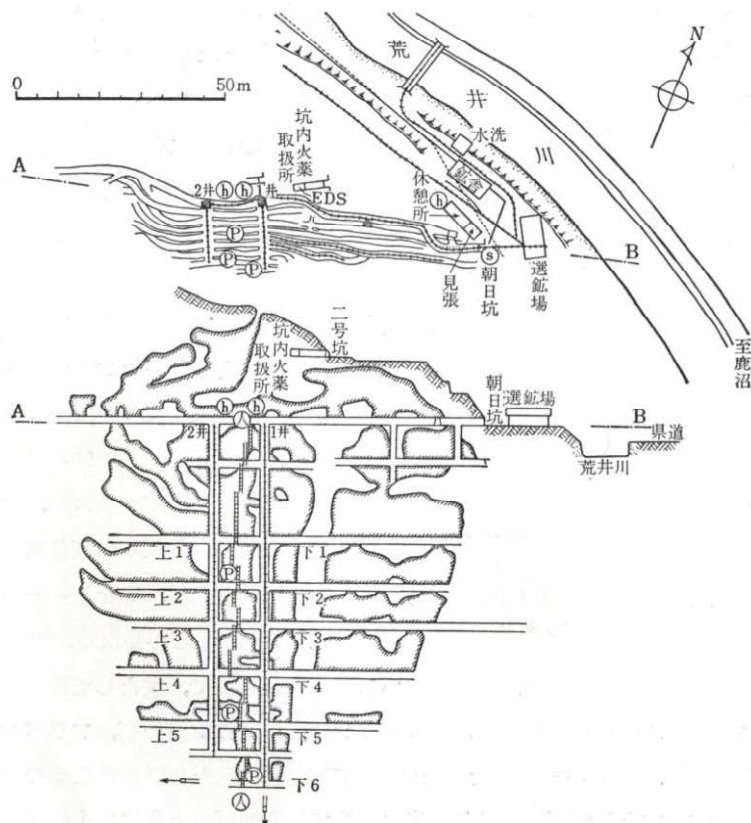


図9 参考文献(1)からの複写掲載

図 II.1.44 高平鉱山坑内外実測図



写真 1 4 高平鉦山の北部分への入り口となる沢。



写真 1 5 昔と違って、ブルドーザーによって林道が開削されていた。B 点付近。赤輪の所に坑口を確認した。手前の斜面はズリ模様。



写真 1 6 その箇所に登り上がって見た入り口の様子。草木の生い茂った時期には見失うかも。



写真 1 7 それを入り口から覗いた内部の様子。既報（80）で紹介した、この沢の右岸側にあった坑口跡などは藪が酷くて再確認はしなかった。

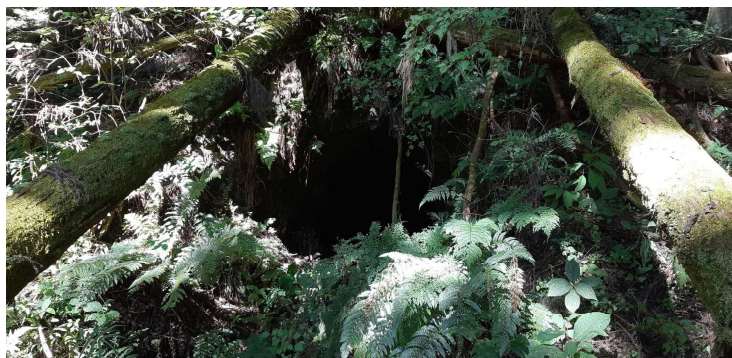


写真18 図6のA点の所の坑口跡。既報の(80)でも紹介している。図7, 図8から「大通洞」跡と思われる。

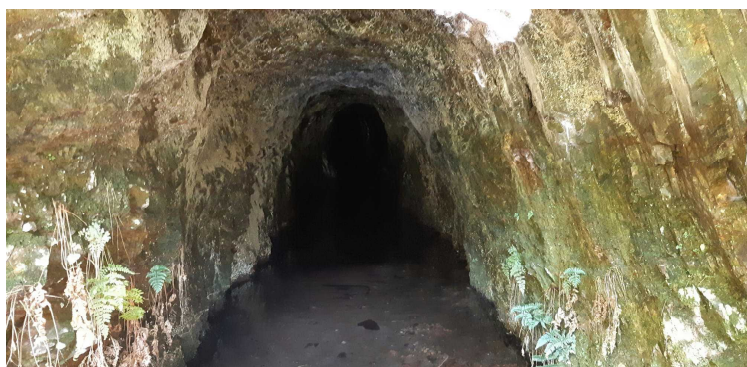


写真19 その入り口から覗いた内部の様子。



写真20 荒井川の南側(右岸)、図6中のC点にあった「発電所」らしかった建物跡。建物の4面の内の2面だけが立ち残っていた。上部の沢山の貫通穴、地面に落ちていた多数の磚子から、ここに発電機があったと推論した。



写真21 前記廃屋から平坦な長いプラトーが川に沿って延びていた。途中の山側に潰れた坑口跡らしいのを見つけた。赤輪の辺り。確かではないが。

参考文献

- (1)「日本地方鉱床誌 関東地方」、今井+河井+宮沢、朝倉書店、1973年。
- (2)「栃木県鹿沼地方マンガン鉱床調査報告」、宮本、高瀬、丸山、地質調査所月報(第5巻、第4号)、163頁～182頁。